
並盛中学校同窓会

ウルカヌス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

並盛中学校同窓会

【Nコード】

N8490Q

【作者名】

ウルカヌス

【あらすじ】

様々な事件に巻き込まれ大きく成長したツナ、結局リボーンの狙い通りボンゴレファミリー10代目ボスに就任したツナは日々ボスとしての日々を追われていた。そんなある日並盛中学の同窓会開催の通知が送られてきた。仕事もなんとか落ち着いている時期であったためツナは同窓会に行くことを決意する……一部キャラが崩壊したりしてます・長編と言っても数話で終わります・CP要素あります(ツナ京・獄八ル・山花)それでも言い方はお読みください

同窓会通知来る！！

「ええ！？同窓会？」

「ああ、ママんがこっちに詳細を送ってくれたぞ」

沢田綱吉・通称ツナ。またはダメツナ

並盛中に通っていた平凡な男の子だったはずだが
ある日リポーンが現れて環境が一変

リポーンにマフィアになれと毎日言われ続け、さらにマフィア関係
の騒動に何度も何度も巻き込まれ

結局はリポーンの思惑通り「ボンゴレ10代目」として生活をして
いる

そのためツナ自身や守護者のほとんどが、イタリアで暮らしていて
旧友の面々と会ってなかった（雲雀は相変わらず並盛にいるが）
そんな時に届いたのが同窓会の通知だった

2

「日取りは？」

「2週間後だな、場所は並盛ボンゴレホテル」

「うっわ………それマジで？」

そこは名前の通りボンゴレが経営するホテルだ
非人道的な事をやらないボンゴレにとってこういった表社会の経営
も幅広く手を広げている

「（でもいくらなんでもファミリーの名前をつけるなんて……）」

ツナは心の中で溜息をつく

「本当だぞ、でツナ。行くのか？」

「んっー……。そのあたりには他ファミリーとの会合や交渉
ごとも今のところないし、

今ある書類に関してもしばらくいつもより多めに仕事をしておけば
余裕が出来る。

あとはみんな（特に隼人）が余計なこととして書類を増やさなきゃい
けるね」

獄寺はツナの中では

立派なトラブルメーカーという立ち位置になっていた

「そうか、じゃあ今日からみっちりこっつてりいくぞ。覚悟しやがれ
！」

「その前に隼人と武呼ばなきゃね。同窓会の事言わないと」

遠い祖国へ想いを寄せながら、己の家業であるマフィア業に精を出
すツナであった……

同窓会通知来る！！（後書き）

ウルカヌス「はい、短いですが終わりです。所詮はプロローグですから」

リボーン「普段ほとんど短編しか書かないのに何言ってやがる！！」

ウルカヌス「まあそうなんだけど、これを期にちょっとは長編挑戦してみるから」

ウルカヌス「あとこの小説はもう完成してるんだけどみんなの反応見たいから日を分けて載せるから」

リボーン「どうせみんなの反応見ても内容変えられないくせに」

ウルカヌス「ん？変えられたら変えるよ？ただあんまり文才ないからあまり無理っただけ」

ツナ「自分で言ったー！！！！」

ウルカヌス「こんな俺だけどよろしく！！あとミクシイではウルカヌス ダンDって名前やってるから、ミクシイやっている人はそっちでも仲良くしてね」

2 / 2 5

リボーン「才能のないダメカヌスのやつが問題点を一応改善させようとしたらしいぜ」

同窓会当日来る！！（前書き）

ツナの代わりに要振りに驚愕するクラスメンバーが見ものかな

同窓会当日来る！！

時は巡りて2週間後の並盛ボンゴレホテル

「よお！久しぶりだなおめーら！」

「お前もなあ、元気だったか？」

「ほんとお前ら変わってねーな」

「てめーはその変わってない代表格だつてーの」

「はあ、獄寺様はいらっしゃらないのかしら？」

「ホント、山本様のお姿も見えないし」

「ダメツナもいないわね」

「ダメツナなんてどうでもいいじゃない！！」

食事に手を伸ばし、お酒もグイグイ進み

そしてみんな思い思いの会話をする元クラスメイト達

そんな中に彼女達もいた

「うわあ！みんな変わってないね花」

「ホント、特に男子なんて昔のまんまみたい。ガキばっか」

当時の並中のマドンナで晴れの守護者笹川了平の妹、笹川京子とその親友である黒川花である

京子はツナと、黒川は山本と付き合っているのだが

本部の古参幹部達を黙らせてからでないと、ボンゴレ内部ですら危険だという

ツナ達の判断から日本に残り、社会人として暮らしていた

「あいつらはくるのかしら？」

「うん、この間来るってメールきたよ」

「私にはこなかったんだけど・・・」

「きつと忙しかったんだよ、私にきたメールだって秘書の人からだ
ったもん」

「秘書からって・・・白状ね沢田も」

「そんなことないよ！伝言だけど「ちゃんと自分で連絡できなくて
ゴメン」って、言つてたらしいもん」

「でもいくら忙しいからって、メールを書くくらいは時間くらいあ
る・・・」

ボタン！！

その時会場の入り口のドアが開いた

まず現れたのは2人のイケメン

相変わらずの銀髪と鋭い目

しかし昔と比べ、どこか落ち着いた雰囲気を出した獄寺隼人

そしてあの爽やかな笑顔ながらも

鋭い感じもにじみ出ている。元野球部エース山本武であった

二人とも黒のスーツを見事に着こなしている

その二人が現れたことにより女子達の黄色い声が上がるかと思われたが、そうはならなかった

後ろにいた一人の男によって声が出なかったのだ

さらさらした茶色の髪

中性的な顔立ち

着こなされた白いスーツ

なにより澄み切った雰囲気を持ちながら存在感は絶対的強者の風格

一部を除き誰もが固まって動けず声も出せなかった

一番最初に動き出したのは京子だった

「あつツツ君!」

「ーツツ君だなんてなんて親しげなんだろう、どこの誰かは知らないけれどもきつと笹川の彼氏なんだろう

しかし、笹川の彼氏ならなぜ笹川と一緒に来ないのだろう? いや、これは並盛中の同窓会なのだから笹川と一緒に来たとしても、普通は来るべきではないのだが・・・

考えてみたらダメツナはどうしたのだろうか? いつもあの2人と一緒にいるんでいたのではないか

そういえば現れた謎の男は、どここなくあの「沢田綱吉」に似ている……「綱吉」だから つ も入る
いや、だからと言ってあのダメツナが、並盛のアイドル「笹川京子」と付き合っている訳がない!!
そう、そんなわけないんだ、そんなはずない!!!

と周りの面々（特に野郎ども）は一斉に現実逃避を始めた
しかし、それは次の黒川の言葉で打ち砕かれる

「全く、なにやってんのよ沢田！あんたがしつかりしないと武達もこれないんだから、ちゃんと働きなさいよ？だから遅れたんでしょ」

「へっ？……お前ダメツナ？……」
「うん、そうだよ？みんな久し振り！元気だった？」

「…………マジでダメツナなのかああ……!!!……!!!……??」

その瞬間砂になった野郎ども
女子達はポケーっと綱吉を見つめている

「こら女共！！なに笹川の許可も得ずになに十代目のことジロジロ見てやがるんだ……!!」

その言葉にビビる女子達

「隼人黙って、見られているだけでそんな実害はないんだ気にはしないさ」

「いやっ、しかし・・・」
「よく」お前は昔と変わったな」って最近言われる。きつとそれだ
ろっ見られてるのは」

「・・・いや違う！それもあるけどそれじゃない！！！！

と心の中で突っ込みを入れる黒川と獄寺

「ツナは相変わらずなのな」

と山本はひとりのんきに言っている

「どついう意味さ武・・・それに黒川も！俺はしつかりやってる
よ？だけど俺の側近達が派手に暴れてくる所業で、余計な書類が増
えまくって大変なんだから」

「・・・それってどんくらい増やされてるの？」

「本来の俺がやる書類の5倍かな」

「ごめん沢田、あんたはちゃんとやってんのね」

「ホント、4日前もこの2人が大量に書類を生産してくれたおかげ
で来られないかと思っただよ、いやマジで」

そう言いながら二人に視線を送るツナ

その視線が痛いのか目をそらす山本と獄寺

ただ己の主からの視線に耐えるしかないのだった・・・

同窓会当日来る！！（後書き）

黒川「沢田の変わりように驚愕するってのはオリジナルティーないわよね」

ウルカヌス「だってツナの変わりようで驚かせるのが同窓会ネタの本道だもん」

ツナ「でもクラスのみんなの現実逃避半端ないね」

ウルカヌス「そうだねwwwでもまだまだクラスメイトのみんなには驚いてもらうし、圧倒的な人間的な敗北感を味わってもらいたいwww」

獄寺「てめーにそれがかけるのかよ!?!」

ウルカヌス「一応書いたつもりだけど？まあ次回を楽しみにしてね」

2 / 2 5

獄寺「言われた部分を修正したらしいぜ？」

ボスの本性来る！！（前書き）

男としての圧倒的な差に野郎どもはさらに奈落に落ちます

そしてイタリア文化にも驚愕します W W W W

ボスの本性来る！！

「そういえば沢田、獄寺が「笹川の許可も得ずに」って言ってたけどどういうこと？いや大体想像はついてんだが・・・」

「ほぼその想像の通りだよ、京子ちゃんと婚約してる」

「・・・婚約！！？」「・・・」

「そう、婚約。ついでに言うと武と黒川も婚約はまだまだけど付き合ってるよ」

「ツナー、バラすなんてヒデーじゃねーか」

「そう？勘がいい人はさっきの黒川の「武もこれない」発言で気づいてるはずだよ？」

「正確には武達ね、それにあんた達の事実の方が衝撃的すぎてみんな気づいてなかったわよ」

そうなの？とツナが周りも見れば

肯定するかのようにビツクリしたようなクラスメイト達の顔がある

(男子はツナと京子の婚約にビツクリしているのだが)

「・・・ああ、そうみたいだね、ごめんね二人とも」

「お詫びになんか奢りなさいよ、いつになるかわからないけど」

日本とイタリアに離れて暮らしているための皮肉

そのつもりだったのだがツナはクスリと笑った

「ああ・・・意外と早くそれは達成されるかもね」

「どういうことよ？」

「それは後から・・・行こうか？京子ちゃん」

そういつて京子をエスコートしようとするが当の京子はちょっと不

機嫌そう

「どうしたの？京子ちゃん……」

「……なんで？」

「へっ？」

「なんで……ちゃんづけなの？」

そう言われてああ！と気づくツナ

二人が付き合って半年後、京子はツナ君からツツ君呼びに変わった同時にツナも、京子ちゃんから京子と、呼び捨てに変わっていたのだそれが今、ちゃんをつけられているのに京子は不満を抱いていた

「並中時代はそうやって呼んでたな……って、懐かしくなっちゃって、つい……ね」

「なら……キスしてくれたら許してあげる」

—————笹川さ—————ん!!!!!!???

並中のアイドルはどこかホンワカしていて、天然で、ちょっと恥ずかしがり屋なお方だった

そんな堂々とキスを迫るなんて、当時からしたらあまりイメージがわからない

でも今現在は（この変わりようを見ても出来れば認めたくないが）ダメツナとお付き合いし出してから大胆になったようだ

野郎どもは「なぜだああああ……!!」と心中でのたうち回り
女子はカッコよくなっただツナと

昔の美貌から数段磨きかかった美しさの京子の二人を
もはや「お似合いの美男美女カップル」と認定したようで
キスをせがむ京子を援護射撃するようにツナを煽り始めた

「ほら沢田くん!!彼女がこう言ってるわよ!今すぐしちやいなさい!」

「そーよ、笹川さんを悲しませた罪を今すぐ償うべきじゃない?」
「ここでやつちやわなきゃあんたは本当にダメツナよ!!?」

もはや逃げ場はないようだ……

「ふう……ごめんね京子、悪かった」

そう言うや否や京子にキスをするツナ
しかも……

ピチャ……ピチャ……

—————Dなキスだった

「……何やってんのよあんたは!!!!」「……」
「へっ?……ああそうかここは日本だったね」

そつだそつだと自己完結するツナ
そこにツッコミを入れるのは

今の衝撃で現実に帰ってきた男子たち

「日本だったねってどういうことだ！！お前普段どこにいんだよ！？」

「んっ？イタリアだけど？イタリアだと普通のキスは挨拶だからね。恋人にするならDキスじゃなきゃ」

「いやいやいやいや！！お前は日本人だろ！？なにイタリアにいるからってあつちの文化に染まってるんだ！！」

「仕事上仕方のないことだよ。相手に敬意を称す行為だし、俺はイタリア人の血も入ってるからね」

「へっ？お前イタリア人の先祖いるのか？」

「うん、結構前の先祖だけど、俺はそのイタリア人のご先祖様の先祖帰りって言われるほどだからね。そのせいじゃない？」

ああそういえば中学時代から友人

特に女の子や子供にはとても優しくかったなあ・・・と思いだす同級生達

ツッコミを入れるのに疲れてきたのか

自分達も自己完結で終わらすのであった・・・

「じゃあ俺は花と一緒に食事でもするのな」

「そうね、本当に会うのは久々だし」

「俺は京子と二人きりで食事だ」

「そうだねツツ君」

「って十代目！護衛として俺がそばについてます！！」

「ヤダ」

即答するツナ

「ヤダって十代目！そんな子供みたいなこと言わないでください」
「誰が子供だつて……」

素晴らしい笑顔ながら守護者にとっては怖い部類の笑顔に入る

一度ヴァリアーが任務先で多大な損害を連続で出しツナの限界点を
超えた際

笑顔でザンザスをボコボコにしながらいつもの不安をぶつけまくっ
た挙句

零地点突破 f a s t e d i t i o n を発動させたことがあった

それ以来ボンゴレ幹部達の間ではツナの笑顔を見比べる能力が必要
とされた

で、今の笑顔はやばい部類の笑顔だ

「俺は京子との時間を大切にしたいんだ、君らが問題を起こさなき
やもう少しマメに連絡をとれたのに取れなかった

だから本当に京子との時間は久しぶりだったのに、君がいたら思い
つきり満喫できないじゃないか……」

「いや、しかし……」

「それに、君も大事な大事なフィアンセがいるでしょ？」

「……………なんですと……!!」

山本とツナの二人が相手持ちつてことで、最後の獄寺を狙っていた
女子はその事実衝撃を受けた

「……ああ、彼氏ゲットならず……」

まだ狙つてたのかと呆れる黒川
苦笑いをする山本

それを含めにこやかな笑顔で見守る京子

そんな中ツナと獄寺の会話は続いていた

「隼人も最近ハルとマトモに話せてないよね？」

「まあ……はい、そうですが」

「ここなら警備も万全だし、俺の事なら大丈夫！それにこの最上階のスィートとっておいたし、そこにはもうハルもいるはずだよ？」

ピシリと固まるクラスメイト

「早くイチャイチャしてきなつて」

「……………わかりました。お言葉に甘えさせていただきます」

そういうと、そそくさと出て行く獄寺に

クラスメイト達は声をかけることなど出来なかった

獄寺が出て行ってツナ達は2組に分かれて食事を開始する

ツナはクラスメイト達に目をやると依然として固まっていたため声をかけた

「みんなどうしたの？早く同窓会再開しようよ？」

そう言われ固まっていた面々は一斉にツナに駆け寄った

「ちょっと沢田!!スイートってどういうことよ!!!?」

「ここって結構な高級ホテルよね!？」

「ああ、三ツ星ホテルだったはずだよな!？」

「どうしてそんなホテルのしかもスイートをどうしてダメツナが予約出来るんだよ!!!?」

そう言われツナはキョトンとする

「へっ?別に予約なんてしてないよ?ただ『使いたいからスイート3部屋あけといて』って言ったただけだけど・・・」

「あ、・・・・・・・・あけとい・・・・・・・・て?・・・・・・・・」

「うん、このホテル俺のだし」

空気が凍った

今日は何度固まれば気が済むのだろうか・・・・・・・・

ボスの本性来る！！（後書き）

黒川「沢田はツッコミ役でしょ？ポケに回してどうすんのよ」

ウルカヌス「ツナと京子ちゃんはラブラブしだすと周りは気にしないでだろうよきつと・・・まっ大丈夫でしょ」

ツナ「いやいやいや！！さすがにみんなの前でDキスなんてしないつて！！！」

ウルカヌス「でもしてる小説もあつたからVV俺それ好きだし」

黒川「・・・まあいいわ」

ツナ「いいわじゃないだろ！！・・・でも本当に俺にこんだけのスペックがあつたらなあ・・・」

ウルカヌス「言うな・・・俺も同感だから」

黒川「馬鹿二人が沈んだんであとがきもこの辺で。次回早くも最終回予定、現状じゃ今回より短いから意見あるなら言ってね、ウルカヌスの奴の実力で書けるんだつたら書くつもりらしいから」

ウルカヌス「うん、文才ない俺だけどなんとか書いてみるよ・・・
・ご意見のほうよろしくです」

2 / 2 5

京子「ご指摘された件、直してみました」

御開きの時来る！！（前書き）

早くも最終回です！今まで評判だったクラスメイトの反応はほぼなしです。

御開きの時来る！！

結局再び固まってしまった同級生達を放置プレイしつつ
ツナ達は食事を再開した

それからしばらくして、やっとこ現実に戻ってきてはした
女子はあこがれの獄寺達が、既にパートナー持ちという事実
にシヨックは受けはしたが

こういう時女性の立ち直りというのは早いもので
思いきり同窓会を楽しんでいた

一方野郎共は逆にシヨックから立ち直りにくく
憧れの笹川京子がダメツナの彼女だとか

そのダメツナの現在は容姿も財力もなにからなまでに自分より遙かに勝っている
という事実には打ちひしがれる

そのためやけになった野郎共は、酒だ食事だとヤケになって暴飲暴食
食をしていた

それを見ていたツナは、微笑ましい表情を浮かべると

「ねえ京子ちゃん、後で上の部屋でゆっくり時間とるから、今はあ
つちのみんなと飲んできていい？」

「……そうだね、ツツ君も他のみんなと話したりしたいよね
？」

「ごめんね京子」

「うんうん……いつてらっしゃい」

そういうとヤケ酒してる野郎共に近づくとツナ

「ねえ男子のみんな！飲み比べしない？」

そついうと指を鳴らすツナ

その瞬間、ホテルの従業員が何やらワゴンを押して入ってくる
ワゴンの上に置いてあるのはお酒

ただのお酒ではない

それは日本酒「さむらい」

アルコール度数46という、日本一アルコール度数の高いお酒である

「よっしゃー！ー！やってやる！俺は酒に強いんだ！ー後悔するな
よ沢田！ー！ー！ー！」

一人の男子がそついえば俺も俺もと名乗りを上げる

しかし彼らは、ラベルに書かれたアルコール度数に気付いていない
そんな酒とは知らず、すでにヤケ酒のせいで軽いほろ酔いなため、
度数など気にしていない

まあのちに後悔することにはなるのだが……

一気コールが外野の女子から流れる中飲み干す男子達

既に何人かがダウンしていて、残っている面々もすでに辛そうだ・
・
・

「はあ〜！本当に美味しいね！ーさむらいはvvv」

ツナを除いては

そんな様子を離れた場所から見守る山本と黒川

「ねえ武……みんなより飲んでないとはいえ、沢田って化け物？アルコール46%ってありえないでしょ」

「あんなのツナにとっちゃ朝飯前だ……いつもは70%台のお酒をグイグイ飲んでるぜ？」

「そんなのに飲み比べで勝てるわけないじゃない……」

「いや、2人ほどツナと飲み比べで競えるやついるぜ？」

「その2人と沢田が規格外すぎなのよ！！ああやってダウンしたりまだ飲んでても、顔を青白くしてるほうが普通！」

そう、黒川の言うようにまだ飲んでいる面々のほとんどが顔を青くしている

なぜそこまでして飲むのかというと

せめてお酒の飲み比べくらいは勝ちたいっていう

まあ安いプライドを守りたいがための虚勢なのだが

それすらも出来ないというもはや憐みを感じる状況である

「あれ？みんなどうしたの？ガンガンいこうよ」

ツナのその笑顔が悪魔の笑みに見えたのは言うまでもない

「ふっふ、ツツ君楽しそう」

「よかつたのな、ツナが同窓会を満喫出来て」

京子と山本以外にだが……

とまあそんな飲み比べをしていたら、男子は潰れるのは必然というもので

床に無造作に転がっていた

ツナはロビーに連絡をとり救護班を呼んだ

ただの酔い潰れだが、何もしないよりはマシだからだ

女子も一緒になって看病してくれてるから

もしかしたら男子にとってはおいしい状況になるだろうと、ツナは内心思っていた

そんな中ツナは

山本・京子・黒川で固まって話をしていた

「ここに来たのはさ、二人に伝えなきゃならないことがあったのもあるから来たんだ」

このある意味地獄絵図ともいえる状況で、何を言うのか？

と黒川は思っていたが、突っ込んでも無駄だと分かっているのではない

「で、その伝えることってなんなのよ？」

「うん、最近やっと分からず屋の老いばれ達を賤終わってさ、ボンゴレ内部のゴタゴタを収めることが出来たんだ」

「そうなの！？やったねツツ君！古狸達のせいではなかなか一緒に暮らせないから、寂しかったんだよ？」

「……ああ、沢田だけじゃなくあなたもなの？京子

親友の豹変ぶりにクラリと来る黒川

すでに何かを言う気力はなく、イタリアへの引っ越しなどの細かい話をし終えたら

恋人である山本に連れられ、ホテルの部屋へと戻っていった

もちろんツナも京子と共に部屋に向かった・・・

同級生達は放置して

翌日、引越しのため笹川家に行ったツナだが

その道中で同級生の女子達と何回か出会い、途中で勝手に抜けた事を咎められた

ちなみに男子は全員酷い二日酔いでほぼ全員が寝込んだらしい

ものすごい嵐を呼んだ並盛中同窓会はこうして幕を閉じた

END

御開きの時来る！！（後書き）

ウルカヌス「こうして、女子メンバーもイタリアへ行き、マフィアという殺伐とした生活ながらも幸せに暮らしましたとき……」

ツナ「なにその昔話チックな締めくくり！！」

黒川「ていうか、2話だけ異様に長くない？」

ウルカヌス「そのあたりの説明は別にするあとがきで！！」

この小説を終えて……

短いながらも初長編？完結いたしました！

正直に申し上げます

これ本来は短編小説だったんです（；―；）

最初に書きあげ完成してから、いくつか付け足してたら短編というには、少し長めな小説となってしまうました。

意見も頂けたら頂きたいし、

「せっかくなら長編っぽくないけど、長編にしてみよう！―！」
と思い、今回の形になりました

なぜ、2話「ボスの本性来る！！」のみが長いかというと

ただ全部書きあげた後、キリがいいところで切ってうpしよう
という考えで切り取ってみたら……

2話だけ長い、というような状況になってしまったんですよね（

。□＼）（／□。）／

だから、もう少し妄想力が働けば1話・3話共に違う要素を入れたのですが……

まあなかなかうまくいきませぬ（T―T）

そんな小説ですが、見てくださる方もいて本当に嬉しかったです

俺の現在の妄想執行状況的に、しばらく作品は上げられない可能性が高いですが

また作品をあげた日には、見ていただけたら嬉しいです!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8490q/>

並盛中学校同窓会

2011年3月3日23時36分発行